

# 【 津 久 見 市 】

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査平均正答率一覧

	小学校6年生					中学校3年生				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
津久見市	70.0	57.0	69.0	56.0	67.0	73.0	56.0	65.0	38.0	63.0
大分県 (公立)	72.0	56.0	65.0	52.0	63.0	77.0	62.0	66.0	45.0	67.0
全国 (公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

### 小学校：国語

#### 1 調査結果の分析

##### 小学校：国語A

- ・全国、大分県の平均正答率を下回った。
- ・領域別では「話すこと・聞くこと」以外で全国及び県の平均正答率を下回っている。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

##### 小学校：国語B

- ・全国及び県の平均正答率を上回っている。
- ・「話すこと・聞くこと」において、大分県の平均正答率をわずかに下回った。
- ・「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」（書く能力）、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」（書く能力、読む能力）問題については全国、大分県に比べ正答率が高い。

#### 2 具体的な改善方策

- 漢字を正しく使うことの指導の充実
  - ・漢字の持つ意味を知り、文章の前後の関係を考えながら適切な漢字を使うような学習の取り入れ
- 「話す・聞く」指導の充実
  - ・司会の役割などを理解した上で、話し合い活動を行うような学習活動

## 小学校：算数

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数A

- ・領域別、観点別の全ての項目において全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・百分率に関する問題で正答率を下回った。

#### 小学校：算数B

- ・領域別、観点別全ての項目において全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・領域別の「数量関係」に関する「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する」問いのみ、全国、大分県の平均正答率を下回った。

### 2 具体的な改善方策

- 1時間内における児童のつまずきを想定した個に応じた指導や支援
  - ・習熟度に応じた問題プリントの作成
- 中低学力層の活用力をあげるための指導の工夫
  - ・問題提示の工夫（必要な情報のみで構成するのではなく不必要な情報の挿入等）
- 数学的な考え方を高める指導の充実
  - ・目的に応じて資料を集めて分類整理したり、表やグラフなどに分かりやすく表現したり、特徴を調べたり、読み取ったりする活動の設定
  - ・他者が読み取った情報や観点をグラフなどに関連付けて解釈するような活動の設定

## 小学校：理科

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：理科

- ・観点別の全ての項目において全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・自然事象についての知識・理解について特に正答率が高い。
- ・記述の問題形式が全国、大分県の平均正答率を下回る。

### 2 具体的な改善方策

- 科学的な見方・考え方を身に付ける指導の充実
  - ・生活経験を基に、予想・仮説・実験・結果を整理し、結果を基に結論を説明するような学習活動の設定

## 中学校：国語

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語A

- ・全国、大分県の平均正答率は全国を下回っている。
- ・正答数26問（32問中）以上の上位層の割合が、全国、大分県に比べて低い。
- ・正答数12問（32問中）以下の下位層の割合は7.2%で、全国、大分県の倍近い。

#### 中学校：国語B

- ・全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・正答率が5割未満の問題が4問（全国は3問、大分県は2問）ある。
- ・全ての領域、及び観点で、全国、大分県の平均正答率を下回った。
- ・「相手に伝わるように、あらすじを捉えて書く」（書く能力、読む能力）設問の正答率が、全国、大分県に比べ大きく下回っており、無解答率も12.9%と高くなっている。

### 2 具体的な改善方策

- 日常で生きる語彙指導
  - ・語彙の文脈の中での使い方を理解できるような単文作成
  - ・語彙を増やすための手引きや資料の活用
- 伝える相手を意識した「書くこと」の指導の充実
  - ・伝えたい事柄や意見を明確にし、文章の構成を意識したり、伝えたい事柄にふさわしい言葉を選択したりして書くとともに、それらの効果や工夫について考えを述べ合う学習活動を單元の中に意識的に設定
- 読解力の向上
  - ・段落の関係（問いの文、事実、意見等）を意識させるような場の設定
  - ・情報の中から必要な内容を選択するような学習の設定

## 中学校：数学

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学A

- ・全国及び大分県の平均正答率を下回っている。
- ・領域別の「数と式」は、全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・観点別の「数学的な技能」は、全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・正答数14問（36問中）以下の下位層の割合15.8%は全国（15.7%）、大分県（14.8%）と大きく変わらないが、正答数29問（36問中）以上の上位層の割合（31.6%）が、全国（34.3%）、大分県（35.2%）に比べて3ポイント近く低い。

#### 中学校：数学B

- ・全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・領域別の「図形」「関数」「資料の活用」において全国、大分県の平均正答率を大きく下回っている。
- ・観点別では、「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識・理解」の両項目とも、全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・正答数5問（14問中）以下の下位層の割合（48.2%）が、全国（42.5%）、大分県（41.1%）

### 2 具体的な改善方策

#### ○基礎的内容の定着

- ・授業と連動した課題の提示
- ・確率の意味について実感を伴って理解するために、観察や操作、実験などの活動をグラフにまとめるなどして考察する活動を重視

#### ○問題解決的な学習の充実

- ・数量の関係や法則などを事象に即して解釈し、言葉や数、式、図、表やグラフを用いて自分の考えを表現したり、説明したりする活動の設定

#### ○数学的な考え方を高める指導の充実

- ・構想を立て、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実
- ・実生活における問題を、数学を活用して解決できるような課題の設定

## 中学校：理科

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：理科

- ・全国及び大分県の平均正答率を下回っている。
- ・第二分野の「生物的領域」で全国、大分県の平均正答率を10ポイント近く下回っている。
- ・観点別の「自然事象への関心・意欲・態度」は、全国、大分県の平均正答率を上回った。
- ・正答数10問（27問中）以下の下位層の割合11.4%は、全国（9.3%）、大分県（10.4%）とあまり変わらないが、正答数22問（27問中）以上の上位層の割合が、23.8%と全国（31.3%）、大分県（28.3%）に比べて5ポイント以上低い。

### 2 具体的な改善方策

#### ○基礎・基本の定着

- ・授業内において、意識的に学習用語を提示したり、生徒の使用を促す指導

#### ○科学的に探究する学習活動の充実

- ・教師が課題を提示するだけでなく、自然の事象・現象や身の回りの事象から問題を見だし、生徒自らが課題を設定して科学的に探究する学習活動の設定
  - ・予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する活動の充実
  - ・自分の考えをもち、自分や他者の考えを検討して改善する学習活動の充実
- ※考察の場面における話し合いでは「予想や仮説と観察・実験の結果が一致しているかどうか」という視点や、課題に正対した考察になっているかなどの視点を明示

# 【 津 久 見 市 】

## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

##### ○基本的な生活習慣等

- ・朝食の摂取や就寝・起床時間については概ね全国平均と同等。

##### ○自尊感情等

- ・自尊感情は全国平均よりも約3P低い（80.8%）（74.0%）が、昨年度（74.0%）よりも高い傾向にある。

- ・将来の夢や希望を持っている児童は81.7%で、全国平均（85.7%）より低い、人の役に立つ人間になりたいと思う児童は97.5%で全国平均よりも2P高い。

##### ○学習習慣

- ・家で学校の宿題をしている児童は98.3%と全国平均よりも2P近く高い傾向にあるが、自分で計画を立てて取り組んでいる割合は62.5%で全国平均よりも5Pほど低い。
- ・平日の学習時間は、1時間以上の割合が72.5%で全国平均より6P程度高いが、家で授業の予習・復習をしていると答えた児童の割合（46.6%）は、全国平均より16P低い。

##### ○学級、学校生活

- ・先生はよいところを認めてくれると答えた児童の割合は81.7%で全国平均の85.3%を下

#### 生徒質問紙

##### ○基本的な生活習慣等

- ・朝食の摂取や起床・就寝時間については概ね全国平均と同等。

##### ○自尊感情、規範意識

- ・自尊感情は県平均及び全国平均よりも約15P低い（64.0%）。
- ・将来の夢や希望を持っている生徒は72.6%、人の役に立つ人間になりたいと答えた生徒の割合は94.3%で全国平均と同等。

##### ○学習習慣

- ・家で学校の宿題をしている生徒は95.0%と全国平均よりも4P近く高い傾向にある。
- ・平日の学習時間は、1時間以上2時間以内と答えた割合が一番高く（52.5%）、2時間以上の割合は22.3%で、全国平均より14P程度、県平均よりは30P以上低い。

##### ○学級、学校生活

- ・先生はよいところを認めてくれると答えた生徒の割合は70.5%で、全国平均の82.2%、県平均の85.2%を下回っている。

## 2 津久見市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

### ◇基本的な生活習慣の徹底

- ・「つくみっこ子みんなで守ろう！」（「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ」「通信機器の使い方『つくみっ子を守る10か条』」）の周知のために、年度当初に全家庭に向けポスター配付、PTAでの広報等、学校、保護者、地域と連携

### ◇自尊感情、規範意識

- ・児童生徒の頑張りや成果を、周囲から「認められている」と実感させる取り組みの推進
- ・道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通して豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育の一層の充実

### ◇学習習慣の定着

- ・「家庭学習のすすめ」等の活用と、保護者との連携の推進
- ・家庭学習の内容の検討（授業と連動した家庭学習の推進）

### ◇学級、学校生活

- ・hyper-QU（年2回）を活用した、学び合い・支え合う学級集団づくり
- ・児童生徒一人一人のよさや可能性を見つけ、児童生徒に伝える教師の姿勢づくり

# 【 津 久 見 市 】

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

- ・学習規律については、各小学校にて徹底した取組がなされている。
- ・国語・算数・理科において各学校で補充学習を実施している。
- ・教員がICTを活用した授業については全ての学校で月に1回以上取り組んでいるが、児童がICTを活用する学習活動については取組にばらつきがある。
- ・校区の中学校と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組はあまり積極的には行われていない。

#### 中学校：学校質問紙

- ・生徒の一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を比較的好く行っている。
- ・学習規律の指導を行っているが、授業中の私語等があり、落ち着いているとは言い難い。
- ・教員がICTを活用した授業についてはほぼ毎日実施されているが、生徒がICTを活用する学習活動については週に1回程度の取組となっている。
- ・授業の中で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことがあまり出来てはいない。
- ・地域人材を外部講師とした授業は比較的行っているが、博物館や科学館、図書館を利用した授業はあまり行われていない。

### 2 津久見市の学校質問紙調査の結果をふまえて

- ◇学びの成果を実感し、次の時間への意欲や問題意識につなげる「振り返り」の徹底
- ◇個に応じたきめ細かな指導の充実（TT指導・少人数指導・習熟度別指導・個別補充指導）
- ◇優れた授業実践に学び、授業改善につなげるための「学力向上支援教員等の公開授業」「授業視察」への参加の推進
- ◇中学校区における情報交換や小中合同研修会や教科部会の実施